



新時代を拓く  
Create a New History

FC GIFU

FC岐阜  
株式会社岐阜フットボールクラブ  
代表取締役社長

宮田博之氏

連載Vol.

36

## 新年明けましておめでとうございます

昨シーズンのFC岐阜は途中、勝利から遠ざかるも大変大勢のファン、サポーターの皆様からの温かいご声援のお陰で、監督やコーチ達の指導力、選手たちのモチベーションも下がることなく持続することができました。最後の6試合では、いくつかの課題も修正でき、2019シーズンに繋がる試合運びとなりました。

一方、昨シーズンホームゲームの観客動員数は一昨年とほぼ同数でJ2リーグ22チーム中9位で、J1経験チーム(12チーム)や強豪チームがひしめく中でベストテン入りを継続出来ていることは本当に有難いことで、ファン・サポーター・スポンサーの皆様方に心から感謝を致しています。

経営的には改善してきておりますが、J2の平均チーム人件費と比べてまだまだ低い水準にあり、チーム強化をさらに強め、今シーズンからその水準が追いつくよう着実な経営を進めていく所存です。

昨年はロシアワールドカップ、世界の大物選手のJリーグへの移籍動向が注目され、終盤はJ1リーグによる近年稀に見る残留争いが繰り広げられるなど、サッカーが注目を浴びました。

昨年末にはJリーグルール改正で、選手の外国人枠の拡大でJ2では4人の外国人出場が可能になる一方で、自チームの各アカデミー(FC岐阜U-18、FC岐阜U-15)育ちの選手たちの育成、選手登用のシステム強化のルールも公表されました。

つまりホームグロウン制度と言われるものが制定され、12歳以上21歳までの間に最低でも3シーズン36か月以上、自チームのアカデミーに所属していた選手を、J1では2019年2020年に2人、2021年では3人、2022年には4人以上在籍していることが必要になります。J2では2022年に1人以上の在籍が求められており、守れなければ罰則規定も適用されることとなります。

FC岐阜では、3年後に手を打てばよいことではなく、今年、高校1年生になる生徒が卒業するときには最低1人の選手採用が求められています。FC岐阜U-18から10年間の歴史の中で、未だトップチームの選手に誰もなったことがない現状です。従って今後、選手の強化育成を確り行って少なくとも3年後からは着実に選手を輩出する必要があります。加えてトップチームと同じく練習場を転々としている環境を、早急に固定の練習場の確保を図って更に地元の優秀な選手を集めてアカデミーからトップチームへと昇格できる様に実績を積み重ねていかなければなりません。

より強く、愛され、感動を共にできるFC岐阜になるよう、そして皆様楽しい週末のスタジアムライフを過ごしていただけるよう邁進し、関係のステークホルダーの皆様と共に課題の解決を図っていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

